

## 竿が釣り心をくすぐる、楽しくする

か が さ お × なかむら しげる  
加賀竿 × 中村 滋 [石川県金沢市]

最大の外様大名として幕府から常に警戒されていた加賀藩では、表立った武芸訓練を避けながら、藩士たちの鍛錬や集中力の向上、健康増進を目的に「釣り」を奨励しました。それが金沢式と呼ばれる釣りの始まりです。以来、針や糸等それぞれに工夫が施され発達します。加賀竿は、竿を継ぐ部分に絹糸を巻き、丁寧に漆を塗り重ねる段巻きの技法で強さと美しさを兼ね備えています。中村さんはその魅力にひかれ、当時すでに唯一人となっていた加賀竿職人の目細忠吉氏めぼそただよしに弟子入りしました。竿づくりは、竹林から素材となる竹を切り出すことから始まり、乾燥、火入れ、継ぎ、漆塗り等を加えつつ厳しく選別を繰り返します。完成品となるのは数千本の竹のうちのほんのわずかで、竹の採取から竿が出来上がるまで何年もの時間を要します。現在中村さんは、2人の若い弟子の育成に力を注ぎつつ、釣り人が心豊かに楽しめる竿づくりに励んでいます。



●加賀石鯛(いしだい)竿  
リールをつけ、海に向かって大胆に針先を投じる。伝統的な道具を新たな時代に合った形に進化させた。



●手長エビ竿  
竹の選別から完成まですべてを一人で行う。作者「白峯」の銘には職人の誇りがこもっている。



●タナゴ竿  
粋な釣り人は、ポケットに入れた竿で出勤前にちよいと糸を垂らす。



●加賀真鯛竿  
竹の特徴を生かしつつ、装飾にも個性を加えている。



職人は、数千本の竹から、たった一本の竿を生み出す。



### 中村 滋 (なかむら しげる)

1957年石川県白山市に生まれる。1982年から石川県内の高校・養護学校で教員として勤務。2000年頃に趣味として和竿の制作を始める。2012年に教員を早期退職、当時すでに唯一人となっていた加賀竿職人・目細忠吉氏に師事して制作技法を学ぶ。2017年に新作加賀竿「加賀テンカラ竿」、2020年に新作加賀竿「加賀真鯛竿」を開発するなど、和竿の開発、普及に力を注いでいる。

【加賀竿工房 白峯(はくほう)】

住 所 金沢市光が丘2丁目134番地  
電 話 090-3296-2442

Instagramは  
こちらから

